

08 福岡から拉致被害者家族を支える（北朝鮮による拉致問題）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、立川生志がお届けします。今日のタイトルは「福岡から拉致被害者家族を支える」です。

北朝鮮による拉致被害が明らかに became 1997年、救出運動をするために「家族会」が結成されました。立ち上がった家族を支えようと、各地にできたのが「救う会」です。

「救う会福岡」の会員は現在200人ほどで、学生から90代まで年齢はさまざまです。代表を務める藤井守人さんにお話を伺いました。

【藤井さん役】救う会が全国に広がったのは、拉致被害者として横田めぐみさんの名前が公表されたことがきっかけです。拉致事件を国民に知ってもらうため、実名を出す決断をした横田さんご夫婦の覚悟が、多くの人を動かしました。

拉致事件は、まだ解決していない現在進行形の問題です。21年前、日本政府が認定した拉致被害者17人のうち5人が帰国して以来、何も進展していません。警察庁が発表している拉致被害の可能性を排除できない人は、およそ870人。そのご家族も含めて、その数倍もの人たちが被害を受けているのです。

25 (ナレーター)藤井さんたちは、「拉致問題を解決するために
は、国を批判するよりも、世論で政治を動かすしかない」と
考え、啓発と署名に力を入れています。毎月第2土曜日に、
天神の街頭で活動し、人権講演会などにも出向きます。全国
では、これまでに1400万人の署名を集めました。

30 佐賀と合同で「鳥栖スタジアム」前で活動したときは、対戦
相手の新潟のサポーターから多くの署名が集まり、2時間で
600人を超えました。めぐみさんが拉致された新潟では
関心が高いことを実感し、さらに力を結集するために、さま
ざまな地域との連携を進めています。

35 【藤井さん役】拉致被害者は、ある日突然、家族と引き裂か
れました。生まれた国で平和に家族と暮らすという最も
基本的な権利を、一方的に暴力によって奪われたのです。ご
家族は大きな喪失感を何十年も抱え、苦しみ続けてきました。
40 私は、横田さんをはじめご家族と会うたびに、悔しさがこ
み上げてきます。生きているのに会えないなんて、想像を超
える辛さだろうと思います。
45 拉致被害者のご家族は高齢化しており、再会できる時間は
限られています。この問題を多くの人に知ってもらい、全員
の帰国を叶えることが私たちの願いです。

(本文953字)